

7月度 例会 個人 山行報告書		報告者	町田	参加メンバー	CL 岸上 SL 西川 谷口 金子 津田 永田恵利佳 小田祐子 永井美樹 町田(記)
		報告日	10/6		
山域	北海道東大雪山系	山行日	2,022年9月17日-18日		
山名	ニペソツ山2,013m				
山行目的	北海道の山を楽しむ／親睦登山		コースタイム(天候:天気図記号)		

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集会担当者

ルート図(地図を見て正確に)



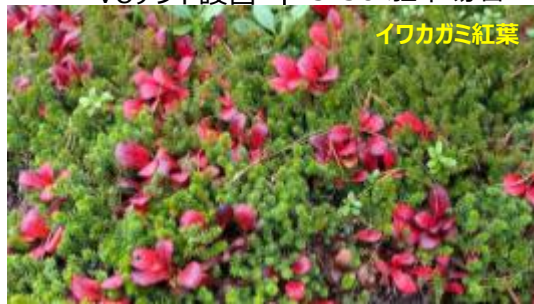
25万分の1地図 ※「1ぎまんち」北海道足寄の「民泊GuestHouse」

9/17(土)曇り/雨

06:00 ぎまんち発
08:00 駐車場発
09:00 一本
10:30 三条沼
12:00 尾根登り
12:50 尾根登り切り
13:40 カールの登り
14:10 幌加分岐着
V8テント設営

9/18(日)曇り

05:30 日の出
05:40 天場発
07:30 ニペソツ山到着
07:50 ニペソツ山発
08:50 一本
09:30 天場着
10:30 カールの底
11:50 三条沼
13:30 駐車場着



〈山行報告〉深田久弥は著書「山頂の憩い」でニペソツ山をこのように評している：『日本百名山』を出し時、私はまだこの山を見ていなかった。ニペソツには申し訳なかったが、その中に入れなかった。実に立派な山であることを、登ってみて初めて知った。・・・幻の百名山と言われる所以である。4年目の「北の愉快な仲間たち」このニペソツにチャレンジした。9/17(土):ぎまんち※1を早朝出発。音更川沿いのR273を北上、糠平湖を過ぎたあたりから幌加温泉林道に入り、ゲート前駐車場から出発した。ぬかるみが危惧された登山道は割と乾いており、快適にピッチを延ばす。小さな渡渉を終え、神秘的な三条沼を過ぎると広い尾根筋の登りになる。さらに高度を上げると、ちらほら山が紅葉づいて来た。P1,662mまで上がるとニペソツが見えるはずだが、ガスの中。前天狗岳のカールでナキウサギ発見。カール上部は砂礫状の登山道で足場が悪く、這うようにして天狗尾根に出る。尾根を暫く歩くと幌加分岐で、ここにテントを張る。風が強く、北西からの雲が次から次へと吹き上がり、ニペソツは雲の中だった。そして、昨年登った石狩岳も北側の山稜に隠れて見えない。だが、大雪の旭岳・忠別岳・トムラウシ山の山稜は雲の上に悠然とそのピークを構えていた。この夜、強風でテントのバタつきが激しく、女性陣はほとんど眠れなかったとか・・・。おやじたちは爆睡でした。慣れですかね〜。9/18(日):日の出は5:30ごろ、東の雄阿寒岳・阿寒富士辺りから空がオレンジ色に燃えてくる。強風の中テント撤収し、いよいよ本峰アタック。相変わらずニペソツは雲の中。それでも小ピークを超えると東側が鋭く切り立った岩峰が見えてきた。風が強く美樹ちゃんは手拭いでほおっかむり。這松の間にイワカガミの紅葉が綺麗だ。膝の調子がまいちの西川に代わり、女性陣がトップで引っ張る。07:30ついに念願のニペソツ山2,013mに登頂した。雲の切れ間に石狩岳も音更山も再会を確認できた。帰りはニペソツを何回も振り返りながら見て、本当にいい山だな！深田の反省文『実に立派な・・・初めて知った』に同感した。帰りは同ルートですたすと降りた。雲の下に鈍く光る糠平湖が綺麗だった。その日、下山後ぎまんち近くの居酒屋で有希ちゃん夫婦、紗月ちゃん同席で登頂打ち上げ、さらにぎまんちで宴会と歌声が続いた。もちろん2,023の山も決まった。日高の名峰「カムイエクウチカウシ山」1,979m、略して「ハムエッグ」だ。

確認
(リーダー)

岸上

作成
(報告者)

町田

〈リーダー所見〉

今回は、天気にも悩まれた山行でした。土曜日の登山口は小雨、この天気で登るの？というどんよりした空気が流れる。歩き出すとそれほどでもなかったが、三条沼からの急登はなかなかハードで足を滑らすメンバーがいなくて心配になる。稜線に出てみると想像以上に風が強い、テントが飛ばないか心配になる。テントを張ってからもバタバタと揺れて心配は朝まで続く。稜線上にテントを張るときは、風予報をしっかりとみて事前判断する重要性を体感。日曜日は、天気に戻ってくれ、みんなでニペソツ山に登頂。今回もきれいな山容をみんなで見れて最高でした。

メンバー所見

❖西川徹朗SL：今年は膝の調子が悪く、不安のあった北海道。序盤は問題なく歩けたが、急登では徐々に膝に痛みが増してきたが皆の励ましもあり、何とか山頂まで行けて最高でした。下りは痛み止めで快適に歩け、早く飲めば良かったと反省です。

❖谷口壮耶：初めて“北の愉快的仲間達”の北海道山行に参加させて頂きました。これまで参加していたアルプスでの楽しい山行に加え、吉田夫妻、ぎまんちさんとも会い(飛行機トラブルもあり…)本当に楽しい北海道旅行でした。北海道の山はあまり経験がなくヒグマが怖いと思っていましたが、みなさんと過ごしているとそんな思いは消え、宴会を楽しんでいました。ニベソツの山頂では周辺のまだ登ったことのない山が綺麗に見えていたのが印象的でした。またご一緒させてください。

❖金子 清：5年前(2017年)におやじの山旅で知床半島の羅臼岳、硫黄山登山を計画検討した時にヒグマが怖くて、テント泊の縦走を断念し、それぞれの山を日帰り登る計画にしたことがある。今回はテント泊！！「ヒグマよ、出発しないでくれ！」と願う。行動中は熊よけスプレーを左腰に差し、いつでも発射できる態勢に、ザックには鈴を、そして笛を吹きながら歩く。夜は神に祈るのみ・ほろ酔い気分の私はヒグマのこと、強風でテントのバタバタも気にすることなく眠りについたようだ。無事下山に感謝！
皆さん、ありがとう。

❖津田廣一：1か月半、トレさんぽ(山歩)もしておらず、ついて行けるかと懸念しての参加だった。何とか、ついて行けたが、登りは正直きつかった。頂上直下で若き山ガールのスピードにはついて行けず、体力不足も痛感。しかし、憧れのニベソツの頂に立てたのは感無量、久しぶりのテント内での食事と懇親会もよかったなあ。ナキウサギにも初めて会え、いい事尽くしの山行だった。皆さん、ありがとう。こんな老齡山男ですが、今後もよろしく！

❖永田恵利佳：ニベソツ山は、田中陽気さんの本を一読していた経緯もあり、いつか登ってみたいが熊が出るので怖いと いった印象でした。そんな山に登ることが出来たのは、先輩方と一緒にだから、実現したことだと思っています。『先輩方、一緒に行ってくれてありがとうございました。とても心強く、楽しかったです。』雨予報でしたが、幸運にも天候に恵まれ(雨に打たれることなく)、2日間の山旅を楽しむことが出来ました。標高2013mの山は、目新しい植物(イワギキョウ等)や動物(なきうさぎ)を見ることができたり、尾根に出ればトムラウシ山、旭岳など360°絶景続きで感動しました。また初体験の、稜線(幌加分岐点)でのテント泊。非常に風が強く、吹き飛ばされそうな程でほとんど眠ることができず大変な思いをしましたが、早朝の素晴らしい朝焼けと、恒例の楽しいラジオ体操のおかげで疲れが一気に吹き飛び、元気な状態で登頂することが出来ました。今回も前回(2,020.9.26～28 道央/神居尻山～芦別岳～樽前山)に引き続き、非常に楽しく素晴らしい山旅でした。ありがとうございました。



名残の一輪

❖小田祐子：今まででいちばんハラハラドキドキの北の愉快的仲間たちでした！皆で行けばこわくない！

❖永井美樹：初めての北海道の山！ということで大変楽しみにしていた山行。夜は暴風で眠れなかったけれど、それも良い経験でした(笑)。二日目は霧も晴れてかっこいい「ニペどん」を仰ぎ見ることができ、印象深い山行になりました。個人的には、前回(2022.7.16～18) 白馬三山縦走/白馬大池～白馬岳～杓子岳～鑓ヶ岳～鑓温泉～猿倉)よりは、ちゃんと荷物を精査してコンパクトにできたかと思います…次回は苦手なぐたりを克服できるように、もう少し体力づくりをしなければ～。

❖有希ちゃんファミリー：娘が生まれてから1年と10ヶ月、体力も筋力もすっかり落ち、親離れできない娘を置いて、いや子離れできない私が泊りで行けるはずもなく、今回はニベソツを見送ることに。1年ぶりに会う「北の愉快的仲間たち」は昨年と変わらず、皆エネルギーに満ち溢れ、山の楽しさを思い出させてくれました。山に登らなくとも家族ともども「ぎまんち」で楽しませてもらいました。



またね□
紗っちゃん

北の山に熊笛が鳴る「ピ～～♪ ピ～～～♪ ピ～～～♪ フ～ッ！」
熊笛の藪から、じっと見ていた熊は、うるせ～な～、へたっぴ～。
ゆっくり昼寝もできんわ！

三河のおやじ

9/16-17(土)写真回想

❖9/16：セントレアからの飛行機移動(西川・谷口・小田がピーチ乗り遅れ)から波乱万丈のスタート。帯広と云えば「豚丼」早速その味を堪能。ぎまんちでは有希ちゃん・大輝・紗月ちゃんがお出迎え。ジンギスカンで明日からのスタミナ付け



美味い！



お世話になります



美味い！

❖9/17



難なく渡渉



神秘的な三条沼



ぼちぼち紅葉



ナキウサギ！



カールを登ります



美樹ちゃん！



V8とエスパース



元気だね！



乾杯！！



乾杯！！

9/18(日)写真回想



日の出



山頂へ向かう



手ぬぐい娘



幸せです！



山頂で万歳！



帰り見すれば遠ざかる



カールの底で



三条沼まで下りました

居酒屋で
乾杯！



ぎまんちで
もう一曲
行くぞ！